

0022-08

会場:303

時間:5月23日 10:15-10:30

観光資源と災害危険要素の評価と情報発信 -白馬大雪溪の事例- Evaluation and publication of resources for tourism and risk factor of the disaster -a case study in Shirouma Daisekkei-

小森 次郎^{1*}, 菊谷 愛彦², 目代 邦康³

Jiro Komori^{1*}, Yoshihiko Kariya², Kuniyasu Mokudai³

¹ ブータン国経済省地質鉱山局/名大環境学, ² 専修大学文学部環境地理学科, ³ 自然保護助成基金

¹Dept of Geo & Min, Bhutan / Nagoya Univ, ²Dept of Environ Geography, Senshu Univ., ³Pro-Natura Foundation Japan

白馬大雪溪(以下大雪溪とする)は国内有数の登山ルートであり、大雪溪下部に限っては観光客も近寄ることができることから、地域の貴重な観光資源となっている。またその登山口は、首都圏・中京近畿からのアプローチが容易であり、糸魚川ジオパークの南の玄関口と解釈することもできる。ここにはアルプス・ヒマラヤを彷彿とさせる越年性雪渓、急峻な岩稜と圈谷、高山植物といった環境と景観が広がり、観光客の目を楽しませ、登山客の胸を躍らせている。そしてこういった観光資源の成立には、優れた交通条件とともに、糸魚川-静岡構造線に関連した構造運動と氷期の氷河作用と地すべり現象、および現世の大量の積雪と降雨、と幅広い時間スケールの中での特異かつ多様な自然現象が背景にある。その一方で、大雪溪の中～上部では落石やがけ崩れが頻発し毎年のように死傷事故が発生している。この場合は、集中する登山客、脆弱で急峻な地形・地質、落石の音と視界を消す積雪と濃霧といった、地理的条件や自然現象が危険要素の成立に強く影響している。

このように、大雪溪周辺で見られる特異な自然現象は、観光資源と災害の危険要素という、二つの側面の成立を同時に担っている。また、このような関係は他のジオパークやその候補地にも見ることができる。そして Geoscience の知見と経験は、これまで特に観光資源の発掘・評価や宣伝に役立てられてきた感がある。しかし一方で誘客にはマイナス要因ととられがちな災害の危険要素に対しても、Geoscience の知見と経験は、それに基づいた情報の収集・整理と一般への発信を誘致側(自治体や産業界側)とともに進める必要がある。そして、ジオパークやその候補地において、Geoscience の視点で「なぜその地形・地質遺産がそこにあるのか」を考え、観光資源と危険要素の共通の背景として特異な自然現象をとらえることで、訪問者がより本質的かつ多角的に、また安全にジオパークを楽しむことが期待される。

当日は、大雪溪で見ることができる様々な観光資源の紹介と同時に、過去に発生している落石事故の実態の紹介と対応策の提案を行い、資源と危険要素を公平にとらえることの意義について議論を行いたい。

キーワード: 糸魚川ジオパーク, 雪渓, 落石, 登山事故, 情報公開, 自己責任

Keywords: Itoigawa Geopark, snow patch, rock fall, climbing accident, information disclosure, self responsibility